

令和6年度 小松市立 国府小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>＜児童にとって安心な学級づくり、学校づくりを推進する＞</p> <p>【学級づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の4つの視点をもとに研究部と連携し授業づくりを推進する。特に、「国府っ子学習のきまり」をもとに授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気をつくる。 ・また、「やかたシート」により学級目標の設定と振り返りを継続的に行い、年間を通して学級目標に迫る。 ・仲間づくり(KOKUFUトーク)の取組を行い、教師と児童・児童と児童をつなげるリレーションづくりを学期始めに行う。 <p>【学校づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間6回のたてわり遊び等の異学年交流を通して高学年のリーダー性を育むと共に、より良い活動をするために考え方ができる機会とする。 ・企画運営委員会を中心に、学校をよくしようという思いを全校で共有し、仲間のよさを認め合う場（学期に1回のやかたミーティング）を設ける。 	<p>・「国府っ子学習のきまり」を活用し、学年始めの1週間に授業規律を徹底し、安心して学習できる雰囲気・環境づくりを行うことができた。生徒指導4つの視点を生かした授業づくりの振り返りシートを記入することで、効果的な声掛け等を意識することができた。2学期には、学級活動における自発的・自治的な活動（特に話し合い）を学校全体で共通して実践し、他の教科等での授業づくりに繋げることができた。</p> <p>・行事を中心「やかたシート」を効果的に活用し、学級目標に迫ることができた。特に、スポーツ前には、スローガンをもとにそれぞれ（クラス・個人）がめあてを立て、スポーツ後には「やかたミーティング」で総割り班の中で共有することができた。</p> <p>・長期休み明けに年5回の「KOKUFUトーク」を実施し、年度初めには教師と児童を、それ以外には児童同士をつなげるリレーションづくりとなつた。</p> <p>・1学期に引き続き2学期も1回のたてわり遊びと1回のたてわりミーティングを実施した。12月のハッピーフェスティバル（たてわり遊び）は、来年度に向けて最高学年を引き継ぐように5、6年生で企画運営をして取り組むことができた。</p>	<p>・「国府っ子学習のきまり」を活用し、継続して安心して学習できる雰囲気・環境づくりを行うことができた。毎月、生徒指導4つの視点を生かした授業づくりの振り返りシートを記入することで、効果的な声掛け等を意識することができた。2学期には、学級活動における自発的・自治的な活動（特に話し合い）を学校全体で共通して実践し、他の教科等での授業づくりに繋げることができた。</p> <p>・行事を中心「やかたシート」を効果的に活用し、学級目標に迫ることができた。特に、スポーツ前には、スローガンをもとにそれぞれ（クラス・個人）がめあてを立て、スポーツ後には「やかたミーティング」で総割り班の中で共有することができた。</p> <p>・長期休み明けに年5回の「KOKUFUトーク」を実施し、年度初めには教師と児童を、それ以外には児童同士をつなげるリレーションづくりとなつた。</p> <p>・1学期に引き続き2学期も1回のたてわり遊びと1回のたてわりミーティングを実施した。12月のハッピーフェスティバル（たてわり遊び）は、来年度に向けて最高学年を引き継ぐように5、6年生で企画運営をして取り組むことができた。</p>
特別支援教育	<p>＜支援を必要とする児童に対して組織的な支援を図る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学期1回（6月、10月、2月）に特別支援教育校内支援委員会全体会を行い、実態把握・指導支援についての検討及び共通理解を行う。 ・個別の教育支援計画を作成しなければならない児童には、担任が保護者と懇談の機会を持ち、作成する。（1学期前半）また、2学期末以降、年度内に次年度の目標について再び保護者と担任とで話し合い、方向性を決めておき、次年度に申し送る。 ・外部機関とも連携を取り支援を検討する。 	<p>・個別の教育支援計画を作成しなければならない児童の担任に声かけを行い、6月までに作成が完了した。</p> <p>・特別支援教育校内支援委員会を6月に行った。個別の支援シートを作成している児童について長、短期目標や指導・支援の方法等検討を行った。また、個別の教育支援計画を作成している児童の指導・支援について全教員で共通理解を図った。</p> <p>・適宜、児童や保護者、担任の困り感に寄り添い、支援策の検討を行っている。</p>	<p>・個別の教育支援計画をもとに、特別支援教育支援員を含めた支援体制を整えることができた。</p> <p>・個別のシートを作成している児童について、必要な支援を計画に沿って行うことができた。</p> <p>・支援を必要とする児童や保護者、担任に寄り添い、専門相談や教育センター等の外部機関とつなげることができた。</p>
道徳教育	<p>＜発達段階に応じた道徳教育を推進する＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムマップをもとに、発達段階を考慮して、重点目標と各教科、特別活動を関連させて道徳教育を行う。 ・授業公開や道徳ファミリートークの機会を設定し、家庭・地域との連携を図る。 	<p>・毎月、カリキュラムマップをもとに、指導内容を振り返るとともに、各教科や特別活動との関連を確認し、今後の授業計画を立てることができた。</p> <p>・1学期の2回の授業参観の中で、道徳科の授業公開を行った学級があった。ファミリートークは2学期に実施する予定である。</p>	<p>・学校と家庭が連携して子どもの心を育てるため、11月に全学級でファミリートークを実施した。道徳の授業で友達と考え学んだことを、家庭で話し合う機会をもち、児童がさらに考えを深めることができた。</p> <p>・学校の道徳教育について家庭・地域の理解を深めてもらうため、1・2学期の授業参観で道徳科の授業公開を全学級が実施した。</p>
(キヤウドア育成)	<p>＜読書量を確保し、読書の質的な向上を図る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書担当と図書館司書が連携を図り、読書オリンピックや多読者表彰、図書委員会主催の取組を行い、読書の量的・質的な向上を図る。 ・「本のとびら」から選定した各学年の課題図書4冊を1年間で読了する「読む4」の取組を行い、各学期末毎に学級担任と図書担当が読了状況を確認する。 	<p>・5、6月に図書委員の企画を行った。学年を問わず、多くの児童が企画に参加し、図書室や本に親しむきっかけを作ることができた。</p> <p>・1学期の終業式に各学年上位3名ずつ多読賞の表彰を行った。冊数が200冊を超える児童もいた。読書量を確保していくよう、今後も担任と連携し積極的に図書室利用の声掛けをしていく。</p> <p>・「読む4」はほとんどのクラスで7割を超える児童が達成できている。担任と連携し、貸出冊数が月に5冊未満の児童、「読む4」の未達成児童については声かけをしていく。</p>	<p>・図書委員会主催の取り組みを年間を通して行うことで、児童の読書意欲を継続させることができた。また、分類を意識して本を選ぶ児童が増え、読書の質を向上させることができた。</p> <p>・月の貸出冊数が2冊以下の児童の数が5人以下となっており、未読者数が減少している。</p> <p>・「読む4」の達成率は学校全体で94.5%だった。</p>
保健健康教育	<p>＜心身の健康や運動に关心をもち、健康への意識向上を図る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導や保健委員会の活動を通して、感染症予防や健康な体づくりに取り組む。 ・学校保健委員会を通して育友会と連携し、親子が心身の健康についてともに学ぶ機会を作る。 ・持久走記録会を中心に、「持久力アップ大作戦」として年間を通して運動する機会を作り、体力の向上を図る。 	<p>・クイズラリーとポスターの作成・掲示を通して、感染症やけがの予防について、啓発ができた。</p> <p>・学校保健委員会に向け「歯と口の健康」についてのアンケートを作成し、4～6年児童と保護者の回答を得た。結果は今後考察し、学校保健委員会で発表する。</p> <p>・体育委員の企画として、「スポチャレ」と「国府リレー」を行い、運動をする機会を作ることができた。2学期には、スポーツや持久走記録会などがあるため、さらに運動する機会を作っていく。</p>	<p>・11月に学校保健委員会を行った。多くの保護者が参加し、親子で歯と口の健康について学習した。また、冬休みに「歯みがきカレンダー」の取り組みを行い、歯みがきの定着を図った。</p> <p>・スポーツに向け、全校が運動について意欲的になることができた。また持久走記録会に向けて、「朝ラン」と「ランランタイム」の企画を行った。全校のほとんどが参加し、運動する機会を多く作ることができた。3学期も縄跳び交流会や体育委員の企画などを通して運動する機会を積極的に作っていきたい。</p>
情報教育	<p>＜ICTの効果的な活用を図る＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師はICT活用の意図を明確にして授業をデザインすることができるよう、「GIGA校内研修年間計画」に基づき授業実践や研修を積み重ね研鑽に努める。 ・児童は学習の目標達成のためにICTを活用し、自分の学び方を選んだり、友達と考えを交流したりし、自らの学びの質を向上することができるようになる。 	<p>・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を深めている。2学期には授業公開を行い、効果的な活用方法を具体的に学び合うことができる機会を作る。</p> <p>・9割の児童は、学校や家庭で学習用端末を使って学習していると回答している。授業の中で、自分の考えを深める場面で学習用端末を使うなど、効果的な活用の仕方を指導していく。</p> <p>・児童は端末を活用する場面を自分で選択できるようになってきた。考えを広げたり深めたりする道具として積極的に使用できるよう指導したり、敷居が低く使用できるような環境を整備したりしていく。</p>	<p>・「GIGA校内研修年間計画」に基づき、研修を深めることができた。低・中・高ブロックごとに授業実践を交流したり、児童が端末を活用する授業を見合ったりする校内研修を行い、効果的な使い方を研鑽し合った。教員は授業のねらいにせまるために、効果的にICT機器を活用することができるようになってきている。</p> <p>・ほぼ100%の児童が、学習用端末を活用し、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用していると回答している。高学年は、学習課題を達成するために、端末をどう活用するよいかを判断する力も身についてきた。個別最適な学びが充実するように、学習用端末を活用を図っていきたい。</p>
家庭・連携地域との	<p>＜家庭・地域の力を生かした教育活動の推進＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭や地域の力を生かした活動を教育課程に位置づける。 ・学習目標を明確にし、地域の自然や文化について学ぶ機会を設ける。 	<p>・クラブ活動では、昨年同様多くの地域人材を活用して、児童の学習意欲の向上を図ることができた。</p> <p>・地域人材を活用した校外学習では、5年生の田植え体験や6年生のツバメ調査、2年生の町探検（桜生水、虫塚）等地域の方との触れ合いの場をたくさん設けることができた。</p> <p>・保護者アンケートの「家庭や地域と連携しながら、教育活動を行っている」では、肯定的な回答の割合が96.9%であった。また、「お便り・メール・HP等で情報提供に努めている」では、97.9%であった。</p>	<p>・クラブ活動では、年間を通して外部講師を招いて指導していただき、児童の意欲や技能向上につなげることができた。</p> <p>・家族読書、家庭学習プラス週間、毎日の音読課題や計算カード等、家庭と共に理解を深めながら取組を進めることができた。</p> <p>・地域人材を活用した校外学習は、来年度も引き続き取り組んでいきたい。</p>

学校関係者評価	<p>(第1回 学校評議員会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者によるプール当番は、子どもの事故対応が難しく、保護者に責任が転嫁されないか心配である。 ・集団登校に参加できていない児童に対する細やかな配慮をしたほうが良い。 ・中学校や他校の児童との交流場面を増やしていくと良い。 <p>(第2回 学校評議員会より)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上に向けての取り組みは良い。地域の方や外部の方の協力を得ながらさらに体力作りに努めると良い。 ・あいさつは大切である。上級生が下級生の見本になると良い。 ・国府は、地域との強い連携に特色がある。将来国府に愛着をもつ子に育ててほしい。 ・イスが固い。学習に集中するためにクッション性のあるものにできないか。